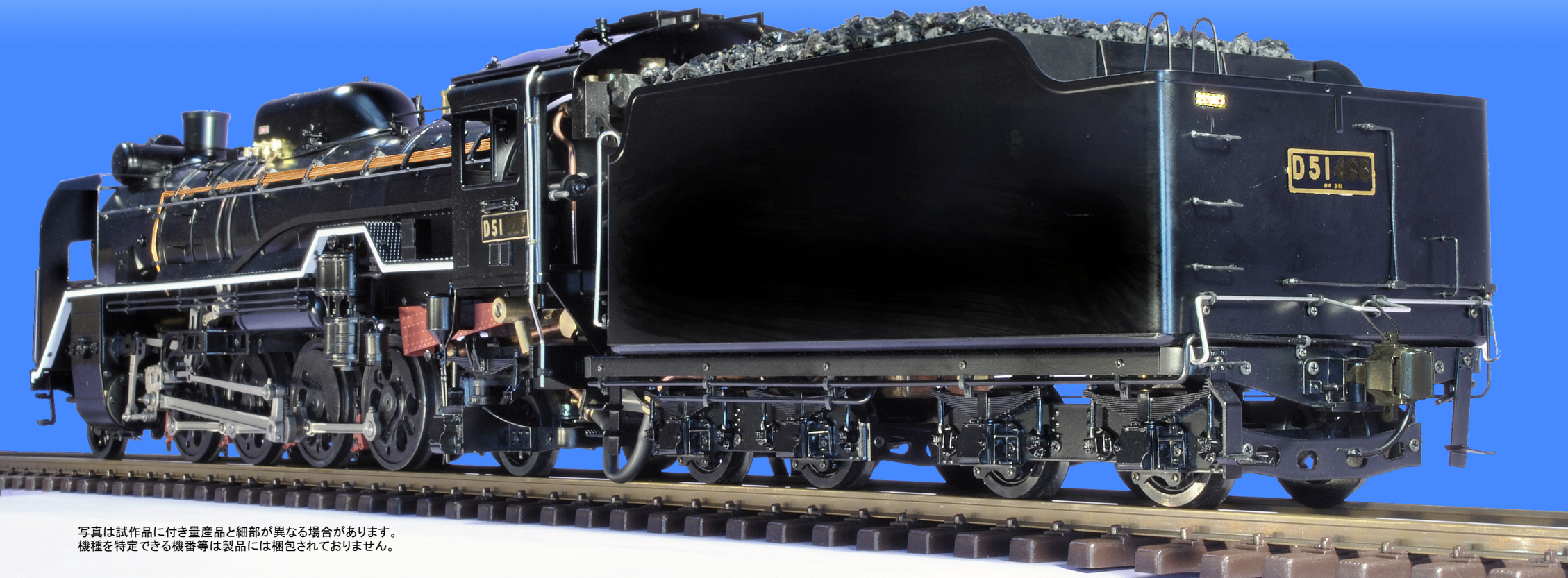


写真は試作品に付き量産品と細部が異なる場合があります。
機種を特定できる機番等は製品には梱包されておりません。

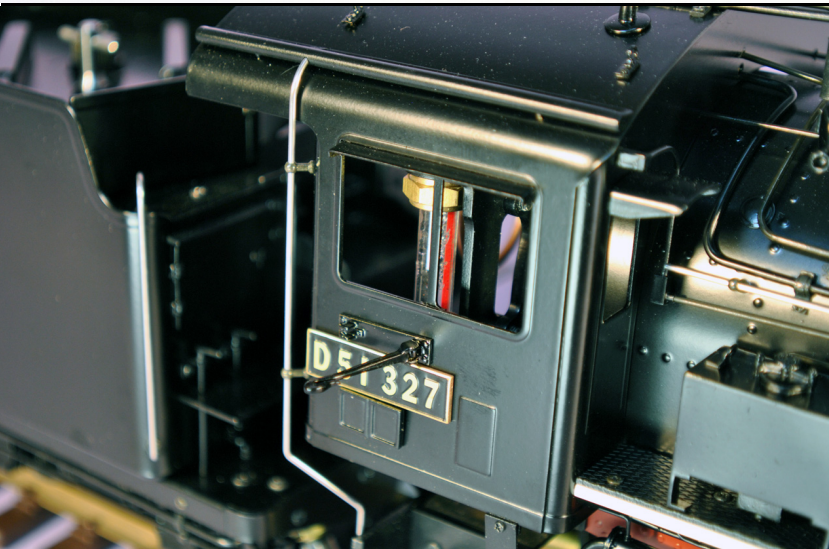
— Technical Specifications —

縮尺・ゲージ	Scale/Gauge	1:30 (Gauge One)	弁装置	Valve Gear	ワルシャート
重量	Weight	7.5 kg (本体5.5kg+炭水車2.3kg)	缶水容量	Water Capacity	300ml(70%満水時)
全長	Length	695mm(本体460mm+炭水車 260mm)	ボイラー装備	Boiler Fittings	スーパーヒーター、加減弁、通風弁、逆止弁
全幅	Width	107mm			水面計、圧力計、汽笛弁、排水弁
全高	Height	140mm	給油装置	Lubricator	ロスコー式
車輪配列	Wheel Arrangement	2 - 8 - 2 Mikado (1D1)	燃料	Fuel	燃料用(又は工業用)メタノール
動輪径	Driving Wheel	49mm(鑄鉄製)			(純度99%以上である事を推奨)
従輪径	Pilot Truck Wheel	32mm(鑄鉄製)	燃料容量	Fuel Capacity	130ml
炭水車車輪径	Trailer Truck Wheel	32mm(鑄鉄製)			(オプションタンク装備時230ml)
自動給水	Axle Driven Pump	第2動輪に装備	炭水車		350ml
シリンダー	Cylinder	ボアφ15mmXストローク22mm 2気筒 ドレンバルブ標準装備	最小回転半径	Minimum Radius	2M (推奨回転半径3M)
ボイラー形式	Boiler	Type C			

D51 Standard Type 標準仕様



写真は試作品に付き量産品と細部が異なる場合があります。
機種を特定できる機番等は製品には梱包されておりません。



D51の歴史

一形式で最大の両数を誇った人気者。

「デゴイチ」の愛称で広く一般にも親しまれているこの機関車は、大正時代の貨物列車D50の改良機として、またそれまでの研究・開発の集大成として、1936年(昭和11年)に誕生しました。その大きさ、また性能が日本の国土に非常に適したものであったため、1945年までの10年間に実に総数1,115両という国鉄機関車の最大の車両数が生産されました。製造年数が長期に渡ったため、最初の1次型、850両が製造された標準型、そして簡易化が図られた戦時設計型と、3つに大別されます。また配属地区や時代によって、部分的に多様な変化が加えられています。国鉄初の箱型輪心動輪(ボックス型)の採用を始め、重量感に富んだその迫力と性能は、近代国鉄型蒸気の設計製作の基本とまでになりました。1次型は煙突から給水過熱器、砂箱、蒸気溜までを一体ドームに収めた半流線形のスタイルでした。このため給水過熱器の検査に不便で、煙突の前に給水過熱器を配置する2次型へと設計変更がなされました。この2次型は別名標準型と呼ばれ、通常D51と言えばこのタイプを指しています。平坦線では貨物機としての役割が多かったD51ですが、急勾配に強い山間用機関車としての頼もしい側面ももっていました。そのため北海道から九州までの全国幹線、亜幹線で重宝され、特に急勾配の多い信州では、旅客・貨物の別なくその実力を大いに発揮しました。SLブームの最中に走っていた伯備線のD51の三重連の迫力は多くのファンを魅了し、いまでも語り草となっています。アスターのモデルは、D51の代表と言える標準型のなかから盛岡機関区の「D51327」を86年に発表。再生産のご要望にお応えし、92年に、JR東日本が現在動態で保存している唯一の蒸気機関車「D51498」をモデル化したしました。この機関車は、旧鉄道省の鷹取工場で製造番号29として1940年に製造。岡山、吹田、平、長岡等を経て、晩年は新津、酒田等の羽越線方面で使用された後、1972年(昭和47年)12月に廃車となりました。その後、上越線後関駅前に保存されていたものを、JR東日本がJR貨物の大宮車両所に依頼して動態復元。復元後の火入れ式は1988年(昭和63年)11月24日におこなわれ、同年12月23日、上野一大宮間で「がオリエント急行」を牽引したのが初仕事でした。現在ではJR東日本の花形機として活躍する一方、同社の蒸気機関士養成用の訓練機としても活躍しています。今回は3度目の再生産と言うことで、全部品を見直し、再設計し、全く新しい、よりスケールに忠実且つ、各地で活躍していた典型的標準型と言うコンセプトで単専用のタブレットキャッチャを標準装備した状態でリリースさせていただきます。戦後よく見られた重油タンクと集煙装置、C62でも好評だったスノーブローを標準装備した重装備仕様と、戦前からの典型的な標準型の2種類をご用意しております。